

神様のカルテ（2011）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 Color
時間 128分
初公開日 2011/08/27
公開情報 東宝
映倫 G

【キャッチコピー】

心は、きっと救える。

最後に
こんな幸せな時間が
待っていたなんて。

【解説】

長野県在住の現役医師のデビュー小説にして2010年の本屋大賞にもノミネートされた同名ベストセラーを、「ハチミツとクロバー」「ヤッターマン」の櫻井翔と「ソラニン」「オカンの嫁入り」の宮崎あおい主演で映画化したヒューマン・ドラマ。信州・松本市の小さな病院で働く青年医師を主人公に、地方医療の現実に翻弄されながらも、様々な経験を通じて成長していく姿を、心温まる夫婦愛とともに描き出す。共演は加賀まりこ、柄本明。監督は「60歳のラブレター」「洋菓子店コアンドル」の深川栄洋。

美しい自然に囲まれた松本に暮らす栗原一止は、本庄病院に勤めて5年目になる青年内科医。慢性的な医師不足に悩むこの小さな病院で、厳しい地方医療の現実と日々格闘し、迷いながらも、有能な同僚たちと力を合わせて懸命に勤務をこなしていた。そんな一止にとって、同じアパートに住む個性豊かな仲間たち、そして最愛の妻・榛名の存在が、疲れた心を癒し元気を与えてくれる何よりの支えとなっていた。そんな中、最先端医療を学べる大学病院への誘いを受けた一止。だが、本庄病院に毎日やって来る大勢の患者のことを思い、心が揺れていた。そこへ、大学病院で手遅れと見放され、なぜか一止を頼ってやって来た高齢の末期ガン患者・安曇さんが現われる。

【クレジット】

| | |
|----------|--|
| 監督 | 深川栄洋 |
| 製作 | 市川南 小林昭夫 大西豊 藤島ジュリーK. 石田耕二 町田智子 |
| 企画プロデュース | 山内章弘 春名慶 |
| プロデューサー | 阿部謙三 澁澤匡哉 川田尚広 |
| 原作 | 夏川草介 |
| 脚本 | 後藤法子 |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています。

データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。

Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

| | | |
|-------------|-------|-------|
| 撮影 | 山田康介 | |
| 美術 | 金勝浩一 | |
| 編集 | 坂東直哉 | |
| 音響効果 | 齋藤昌利 | |
| 音楽 | 松谷卓 | |
| 音楽プロデューサー | 北原京子 | |
| テーマ曲 | 辻井伸行 | |
| 製作統括 | 塚田泰浩 | |
| 録音 | 林大輔 | |
| 照明 | 川井稔 | |
| 製作担当 | 森悦子 | |
| 装飾 | 高橋光 | |
| スクリプター | 川野恵美 | |
| VFXスーパーバイザー | 廣田隼也 | |
| 助監督 | 菅原丈雄 | |
| プロダクション統括 | 金澤清美 | |
| 出演 | 櫻井翔 | 栗原一止 |
| | 宮崎あおい | 栗原榛名 |
| | 要潤 | 砂山次郎 |
| | 吉瀬美智子 | 外村静枝 |
| | 岡田義徳 | 学士 |
| | 朝倉あき | 水無陽子 |
| | 原田泰造 | 男爵 |
| | 西岡徳馬 | 高山秀一郎 |
| | 池脇千鶴 | 東西直美 |
| | 加賀まりこ | 安曇雪乃 |
| | 柄本明 | 貫田誠太郎 |
| | 斎藤歩 | |
| | 梅沢昌代 | |
| | 左右田一平 | |
| | でんでん | |
| | 山下容莉枝 | |
| | 今井和子 | |
| | 春延朋也 | |
| | 野間口徹 | |
| | 中山卓也 | |
| | 金子さやか | |
| | 関根洋子 | |
| | 太田美恵 | |
| | 澤山薫 | |
| | 當島未来 | |
| | 山野海 | |
| | 梶原阿貴 | |
| | 内田滋 | |
| | 北山雅康 | |

駿河太郎
松本実
山口朋華
諫山幸治
もたい陽子